

遠賀川流域通信

発行日 2003年4月16日 発行責任者 遠賀川流域住民の会 世話人代表 窪山邦彦



遡上するサケの研究発表をいただいた足白小学校6年生

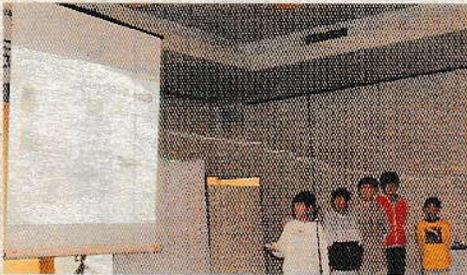
「遠賀川流域住民の会」総会を二月七日(土)飯塚市のがみブレジデントホテルにおいて開催いたしました。

当日は、田井中靖久遠賀川工事事務所所長、江藤貞元飯塚市長をはじめ、自治体関係者のみな様の参加もいただき盛大に行うことができました。

総会后、記念講演「環境保全活動の活性化方策」と題して、環境省九州地区環境対策調査官事務所、坂口長広次席調査官にご講演していただきました。

講演後、「サケの研究報告とし

遠賀川流域住民の会が「特定非営利活動法人遠賀川流域住民」として活動をしていくことを確認、さらに一歩すすめた取り組みを行います。



インターネットを使って全国のサケの様子なども調査、元気に報告いただきました。



「環境保全活動の活性化」と題して坂口長広次席調査官より、ご後援を頂きました。

て「嘉穂町、足白小学校の六年生のみなさんによる研究発表が行われました。

サケのためにも遠賀川の水をきれいにしていきたい、とがんばっている子ども達に元気づけられました。



山口川の生態調査をする「山口川の自然を守る会」の会員

わたしたちは「ふるさと山口川の自然を守ろう」と、その環境保護活動を行っています。以前、山口川からイシドジョウという希少種の生物が見つかりました。そこで、その生態調査及びその保護活動を進める一方、改修工事の際の近自然工法の採択へ向けての呼びかけや、町議会に対して請願書を提出する署名活動等と活動の幅を広げて取り組んでいます。

今年、三月三十日(日)、飯塚コミュニティセンターにおいて「工事差し止め」の法的手段に訴える話し合いを行いました。

会員通信



イシドジョウ コイ目 ドジョウ科
全国的にも分布域が狭い。
九州では遠賀川と紫川の両水系のみ確認。
付着藻類を主とする雑食性

イシドジョウ

河川モニターの洲上さんの手によって、この「イシドジョウ」が発見されました。当初、マニア間では、一匹数万円で取引されるという情報で、私達は発表を差し控えていました。

全長5cm~7cmぐらいで、250万年~300万年前から、ひっそりと、山口川に生息し続けていました。環境省のレッドリストに、絶滅危惧IBに分類されています。

連絡先

山口川の自然を守る会
郵便番号 820-0705
嘉穂郡筑穂町大字元吉
401-16

電話番号

0948-72-1026

二〇〇二年十二月七日(土) 飯塚市のがみプレジデントホテルで「遠賀川流域住民の会」総会、並びに、「特定非営利活動法人遠賀川流域住民の会」設立総会を開催しました。

総会は、会員団体二十五団体、出席団体数二十一団体(内四団体が委任出席)で開催しました。

総会では、議長に「遠賀川源流の森づくり推進会議」の松岡朝生氏を推薦、議事が進められ、提案議案すべて拍手で承認されました。

一、二〇〇二年度、事業・会計中間報告

二、NPO申請について

三、NPO申請、認定後「遠賀川流域住民の会」は解散する

引き続き、「特定非営利活動法人(NPO) 遠賀川流域住民の会」設立総会を開催、議長に「遠賀川源流の森づくり推進会議」の松岡朝生氏を推薦、議事が進められ、提案議案すべて拍手で承認されました。

一、設立趣旨に関する件

二、定款に関する件

三、入会金及び会費に関する件

四、寄付財産に関する件

五、平成十五年度及び、平成十六年度の事業計画、並びに、収支予算について、

六、役員及び報酬に関する件
七、設立代表者に窪山邦彦氏を選出
八、会員は設立時、十八団体、個人会員二名。

設立趣意書

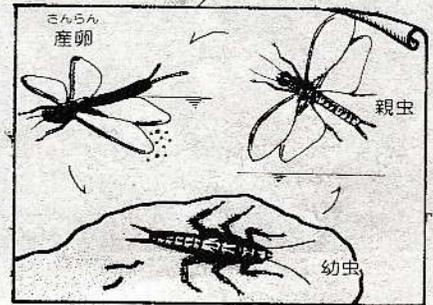
筑豊から北九州の響灘に注ぐ遠賀川は古代から新世紀を迎えた今日に至るまで、私達に恵まれた環境を与えてくれました。

しかし、近年の経済の発展や都市化の進展で、遠賀川に多大な環境負荷をもたらす。現在は九州の一級河川の中で、ワースト一の水質までに悪化してしまいました。

また、最近は一一般廃棄物や家電品、産業廃棄物の不法投棄や新しい形の化学物質性による水質汚染が広がっています。

このような状況の中で私達は十五年前から「I LOVE 遠賀川」のイベント等を開催すると共に任意

カワゲラの一生



団体「遠賀川流域住民の会」を設立して、水質浄化のキャンペーンに取り組んできました。

今後、この活動を流域全体に広げる為に、遠賀川源流から河口までの河川環境に関心がある個人や団体が、既存の枠組やさまざまな立場や主義主張を越えて連携することを促進し遠賀川流域圏の環境の向上、文化の発展に寄与し、川と共生出来る社会を形成したいと考えているところです。その為には、活動の主体を恒常的な組織とし、社会的認知を得ることが必要です。ありますので、特定非営利活動法人遠賀川住民の会を設立するものであります。

水源の森づくりの大切さについて

No1

【川の水は何故なくならないのでしょうか】

日本のような急斜面の国土では、雨は一日で海へ行ってしまってもよいはず。それなのに晴れた日でも流れているのは何故でしょうか。

その秘密は森林にあります。森林は、そのふところ深く雨を受け入れると、少しずつ地下へ送り込み、やがて下流へはきだしてくれます。降った雨が地下にしみこみ、再び地表にわき出てくるには、三百年も五百年もかかっています。

ゆっくりと、地下をくぐったわき水は、集まって谷川になり、小さな川になり、やがて大きな流れになって、平野をうるおしてくれます。

日本では、少しくらい日照りが続いても水が絶えなかったのは、国土の7割をしめる大森林のおかげでした。

※富山和子著書「森は生きている」より転載

NPOってなんですか？

NPOは、英語のNon-Profit Organizationの略で、ボランティア団体や市民活動団体などの「民間非営利組織」を広く指します。つまり、株式会社などの営利企業とは違って、「利益追求のためではなく、社会的な使命(ミッション)の実現を目指して活動する組織や団体」のことです。

社会のさまざまな課題に対して、見過ごすことができない、待ってはられないという思いや志を持った個人が、自らやるべきことを発見して行動し、実現しようとする組織や団体、それがNPOです。

NPO 法人になるとメリットはありますか？

法人格を取得すると、法律行為の主体となれるため、主体としてさまざまな契約を結んだり、財産を保有したりすることが可能となります。また、権利・義務関係や団体の責任が明確化されますので、組織としての安定が図られ、とともに、対外的にも社会的信用が高まり、寄付や助成を受けやすいなどのメリットも期待できます。

一方、適正な会計処理や情報公開など、法人として法的ルールに従った運営や責任が義務づけられることになり、

※ふくおかボランティアネットより転載

第8回 I LOVE 遠賀川流域住民交流会 in 赤池

水運、風土、人物…

遠賀川にはぐくまれ

郷土史家ら語る

九州の一級河川で最も汚れている遠賀川の再生を目指す住民たち約二百人が七日、赤池町に集い、「I LOVE 遠賀川 流域住民交流会」を開いた。八回目の今回は、郷土史家ら五人が上流から順にリレートーク。それぞれの流域の水運、風土、人物などについて話し、遠賀川によってはぐくまれた郷土の豊かさを示した。「語りべ」たちの「遠賀川ものがたり」を紹介する。

赤池町の流域住民交流会詳報



金田町文化連盟会長
福田 昌氏 (76)

藩の1/3のコメ賄う

山岳信仰の山・英彦山、彦山に豊かな水には木がうっそうと茂り供給した。そして、先祖

たちが、川の流れをせき止め、かんがい用水路を作ったおかげで、流域は黄金色に波打つ豊かな稲作地帯になった。

細川氏から小笠原氏が小倉藩を引継いだ後の石高は実質、二十万石以上で、藩のコメの三分の一は田川郡で取れた。昔は宝の川だったが、今は違つたらぬようにした。



日本民俗学会員・飯塚市文化財保護審議委員
中島 忠雄氏 (72)

東大寺にコメ運ぶ

遠賀川を利用してきま 平安時代には、確井町のさまざまな物資が運ばれた。コメが奈良の東大寺に送

られた。その途中、海賊に遭って合戦したという記録も残っている。福岡城築城の折には、三郡山(筑穂町)から切り出された木が遠賀川経由で運ばれた。そして石炭。民俗学者の故・宮本常一氏によると、瀬戸内海の製塩業の燃料として使われ、その結果、瀬戸内海の水は切れず済み、日本で最も美しい景観が守られたという。



直方歳時館長
牛嶋 英俊氏 (56)

暴れん坊の顔も

遠賀川河口から約二十 標高は約七メートル。日本の川ここかのほった直方市の としては緩やかな流れ

だ。遠賀川は三千年前、直方まで海で、古遠賀湾(潟)と呼ばれた大きな入り江だったからだ。海だった範囲を示す地図と、洪水時に浸水する地域を色分けした国土交通省のマップを比べると、形がほとんど同じ。遠賀川は今でも、いざとなると昔の姿に戻ろうとしている。宝の川の一方で、つむじを曲げると暴れる川でもある。



火野葦平の三男・旧居「河伯洞」管理人
玉井 史太郎氏 (65)

川ひらた7000隻数え

期川によって遠賀川との港は、日本の近代化を支えながら北九州市・若松を支えた筑豊炭田の石炭の

積み出し港として発展した。最盛期には七千隻の川ひらたを数え、後の衆院議員、吉田磯吉氏も船頭だった。祖父が、吉田氏に対抗する形で玉井組を立ち上げた。一九〇六年、父、葦平が生まれた。葦平の生涯は、若松を中心とした石炭の歴史とも深い関係がある。



宿場木屋瀬街づくりの会・広報委員長
野口 靖彦氏 (63)

世界的な商人生む

遠賀川河口の芦屋の港を通じて、国内のみならず、江戸初期まで、貿易で世界の情勢が入った。

ここから伊藤一族が生まれた。二代目・伊藤小左衛門は、ポルトガルやマカオの商人に金を貸しつけた。博多の豪商を抜く金持ちだった。商いの主力はコメ、鉄伊万里焼。鎖国にもかかわらず、どんどん海外貿易を続け、朝鮮への武器密輸の罪で死罪になったが、一流の世界商人だった。

2002年9月 西日本新聞より記載

遠賀川の未来のため、あなたの特技を登録しませんか。自薦他薦・・・OKです。

「遠賀川人材バンク」

登録・ご利用は 住民の会ホームページ <http://onga.sabax.jp> まで

遠賀川流域住民の会 問い合わせ先
ホームページ <http://onga.sabax.jp/>

事務局 0947-32-6892 (鬼塚)
ホームページでは掲示板が掲載されるようになっています。各団体の情報を載せてください。情報を発信してください。

第8回 | LOVE 遠賀川流域住民交流会 in 赤池

2002年9月7日(土曜日)「第8回 | LOVE 遠賀川流域住民交流会 in 赤池」を赤池町で開催、200名の人々と遠賀川再生に向けてつどいました。今回は遠賀川をもっと知ろう、をテーマに、5人の郷土史のみなさんに語っていただきました。



彦山川の河川敷に舞台が設けられ懇親会を開催。コーラスに歓迎されました。

漁師が山に木を植え、魚を育てる。子ども達がどんぐりを拾って苗を作り植林する。自然と共存して生きるために何が出来るか、今、考えなければ取り返しがつきません。遠賀川流域で人々が生かされ育んできた自然を見つめるために多くの人が、赤池に集まり語り合いました。知恵を出し合い出来ることから始めよう、やっている事を伝えようと熱い交流が生まれました。志を同じにする人々の顔は現実をみすえて、晴れたり曇ったり、それでも確実に輪は広がっています。

ゴミクリーン作戦 in 芦屋

下流のゴミ・みんなの責任



後方にハマユウが咲く浜辺。あっという間にたくさんのゴミが！

二〇〇二年九月二十二日(日曜日)、遠賀川流域の住民、二百五十人が芦屋町の海岸に集い、ゴミクリーンキャンペーンを開催いたしました。その後、楽しい交流会を行いました。

「大雨の度に芦屋の海岸に大量のゴミが漂着し、芦屋町の漁業や観光に迷惑をかけているのは皆んなの責任だ」として、遠賀川流域住民の会が芦屋町の海岸清掃に集まりました。当日は貸し切りバスなどで上流から下流の芦屋町までの流域住民や関係官庁の職員、小型船舶安全協会、芦屋町職員や看護士さんもボランティアで大勢参加。総勢250人が芦屋町長の歓迎挨拶のあと5班に分かれて海岸のゴミ拾いをしました。

当日流域各地から参加された多くの皆さんご苦労さまでお会いしましょう。(芦屋町の自然を守る会)

清掃後の交流会では、各地からの参加者の紹介や感想。地元の漁協から魚介類、上流からは猪肉などの差し入れもあり、生ビールのジョッキを傾け、バーベキューを楽しみながら、和やかなひとときを過ごしました。

「はじまりはじまり 遠賀川ものがたり」では、5人の語り部によるトークでしたが川と共に生き喜怒哀楽を川で味わい、体験した事柄を子ども達に残し伝える義務があるのではないか、と熱い思いで訴えました。河川敷へ移動しての懇親会も、多くのボランティアに支えられ楽しむことができました。汗を流して働き、生きる力と安らぎを、もたらしてくれる彦山川の川辺は、ひこさんがわ夢の会のシンボルです。いつまでも自慢できる川辺にしたいと思います。地域



田井中靖久遠賀川工事事務所所長をはじめたくさんの皆さんにも参加いただき、岸辺で楽しく懇親会を開催しました。※「はじまりはじまり遠賀川物語報告集」を作成しています。希望の方は事務局まで。

の人々の心がけ一つで変わります。環境が・・・生態系が・・・

心地よい潮風に吹かれ「思ったよりゴミが多い」「マナーを考え直さなければ」などと話ながら海岸清掃を終えま



芦屋町鈴木町長と参加者のみなさん。汗を流した後は楽しく交流会を開催。流域の人々の輪がさらに広がっていきます